



小田原市立芦子小学校学校だより



# あしこだより

令和8年度5月号  
発行者:石井 美佐子

あいさつとやさしさあふれる 成長し続ける 芦子小にしよう  
R8 児童会スローガン

朝晩は肌寒さを感じる一方、日中は爽やかな陽気の日が増え、5月らしい心地よさを感じる今日この頃です。子ども達は新しい学年に少しずつ慣れて、比較的落ち着いた学校生活を送っています。しかしその陽気もいつまで続くのか、既に夏日になりそうな日もあり、これから、熱中症対策に頭を悩ませる毎日が来るかと思うと気が重くなります。保健だよりの「えがお」でもお知らせしましたが、対策の一つに、暑さに少しでも体を慣らしていく「暑熱順化」があります。学校では、今年度も「外遊びの奨励」を学校経営の重点の取組の一つにしていますが、少しでも外で運動をして、暑さに体を慣らしていけるようにしていきたいと考えています。



元気に外遊びに行く子ども達

1年生に囲まれる6年生



そのような中、17・18日(日・月)の日程で、6年生は日光修学旅行に出かけました。当日は見送りができないので、15日(金)に、1年生がメッセージカード(お守り)を6年生に渡しました。日頃お世話になっている6年生に、思い出に残る楽しい修学旅行になってねという思いを込めて「行ってらっしゃい」と伝えました。また、5年生は19・20日(火・水)の日程で南足柄市のふれあいの村に宿泊学習に行ってきました。修学旅行や宿泊学習での子ども達の様子は学校HPでご覧いただきたいと思います。

ちなみに修学旅行先の日光市と小田原市は姉妹都市ですが、姉妹都市になってから今年で20年になるそうです。学校では、日光市と小田原市のお互いの名産を給食の献立に取り入れる「姉妹都市献立」を昨年度から実施しています。修学旅行前日の15日(金)の給食は日光の「ゆば」を入れた澄まし汁と小田原の梅を使った梅そばを丼を提供しました。修学旅行の前のちょっとした予習になったのではと思います。



## 児童会のスローガンが決まりました!

令和8年度の児童会スローガンが決まりました。今年度は、芦子小学校をどんな学校にしたいか、自分たちがどうなりたいか、それぞれのクラスからスローガンに入れたい言葉を事前に集め、児童会の事務局委員会の5・6年生で相談して決めました。今年度は「あいさつとやさしさあふれる成長し続ける 芦子小にしよう」になりました。これから学級や学年、委員会で、このスローガンに向かって取り組んでいきます。

## 学校の安全対策へのご協力をお願いします

保護者・地域の皆様には、これまでも学校の安全管理にご理解とご協力をいただいておりますが、今後より一層の安全対策をすすめるために、改めて次の点についてご協力をお願いします。

### (1) 正門と西門の開閉について

児童在校時から放課後児童が遊びにきている時間帯は、原則として常に閉めた状態にしています。出入りされる際に門を開けられた場合は、必ずお閉めくださるようお願いいたします。

なお、放課後は、校庭や中庭に遊びに来る児童のために正門を少し開けておきます。放課後は正門から出入りし、夕方の市のチャイム放送（ゆりかごの歌）が流れる時刻には帰宅するように指導しています。ご家庭でもご指導くださるようお願いいたします。



### (2) 児童の送迎について

児童の登下校は徒歩を原則としています。しかしながらお子さんの状況等により、やむを得ず自家用車で送迎をされることもあるかと思えます。その場合は、昨年度末から校庭の一部を送迎用駐車スペースとしましたので、ご利用ください。路上に駐停車をされますと、交通の妨げになるだけでなく、通行する車に児童が接触するなどの危険がありますので、ご協力をお願いします。



ちょっと  
5月 寄り道

昨年度末になりますが、キリンホールディングス株式会社取締役会長 CEO の磯崎功典氏のお話を聞く機会がありました。（磯崎氏は小田原市立下曾我小・千代中の卒業生です）

磯崎氏からは、先生方には20年後30年後の社会のあり様を考えて教育にあたってほしいというお話がありました。キリンに入社してくる方は、傾向として優秀でいい人、そして正解を効率よく求めたいと思う人が多いとのことでした。しかし、職業の多くがAIに代替可能となる未来を生きる子ども達には、AIには代替できない力をつけていくことが必要だと、例えば創造力、合理的ではないものに対応する力などが必要だと、そして子ども達に是非失敗する体験をさせてほしい、失敗したことをほめてあげてほしいと言われていました。インターネットが発明され普及したのは私が就職して（社会に出て）4年目くらいのことだと記憶しています。それから30年余り、今ではインターネットは社会のインフラです。AIが普及する速度はインターネットよりも何倍も速いものと考えます。そんな時代に、子ども達にどんな力が必要なのかを考えることは、なかなか難しいことなのですが、未来そのものである子ども達を預かっている私達大人は、自分事として真剣に考えなくてはならないと思っています。

芦子小の子ども達にも、イノベーションを起こす力、創造力、合理的ではないことを何とかやりくりしていく力、答えがはっきりしない状態を受け入れる力、何かをやってみよう・変えてみようとする力、不安に耐える力などが、少しでも育っていけばいい、そのために、学校では、小さい変化を繰り返しながら時代の変化の荒波・大波を乗り越えていく必要があると思います。一歩ずつ。